

# 両支部が取り組む 28年ぶりの分会再編 八王子 分会新聞の全分会発行 組織活性化に向けた試み

杉並 13から8分会体制に 広がった格差を是正する



喜多さん

【杉並・書記・喜多正之通信員】1990年に33分会から13分会に再編してから年月が経ち、各分会が組織拡大、役員後継者の育成に努力を重ねてきましたが、分会の組織人数や役員構成に大きな差が生じてきました。

役員の後継者育成を図るため、従来の「拡大月間」を仲間づくり「月間」として、組合員訪問や対話を強化するとともに、役員交代を促すため2012年から5年間の経過期間を設けて、分会専門部長までの70歳定年制を実施してきましたが、役員交代が滞り



合併に向けて共に頑張ろうとガッチリ握手する東の藤田分会長（左）と高円寺の熊谷勝美分会長



昨年行なわれた分会新聞発行教室

に困難を抱え、新役員が選出できない分会が出てきました。役員が減れば残された方への負担がさらに増すとともに、分会の仲間との情報交流の力も弱まる悪循環が生まれます。

また分会組織人員の減少が分会活動費の減少に直結し、分会独自の行動にも、小人数の分会では財政面でも困難を抱えることとなりました。

## 委員会で慎重に検討 3年かけても結論は出ず

こうした傾向が深刻になりつつあった2013年4月、第64回支部大会で「組織強化を目的として他支部でも実施している（当時）13支部が実施、9支部が検討中」の分会再編について慎重な検討が必要であり「組織検討委員会」で検討することとした。

2013年度〜2014年度を通じて討議した結果を踏まえ、2015年1月の組織検討委員会で、改めて課題を整理。①分会ごとの組織人員の格差や、②役員選出状況、③群編成や、④未滞納の問題、⑤分会数に対しての書記局配置が足りないことなどが指摘されました。同時に、分会の実態の把握が不十分であり、

さらにデータを収集したうえで、その後、「杉並支部の発展に向けて組織体制の見直しと充実が出来るよう提案」することとした。2月に各分会に聞き取りをした結果、4分会から再編の希望があり、当該分会と調整のうえ協議に入ることにしました。

2015年9月、分会再編検討委員会を4分会の参加で開催。再編を希望する分会から「群協議が機能していないので分会再編よりもは群再編」「さまざま取り組みによって、顔の見えない人がみえてきた」「支部主導でない」と決断できない。「交流会には人が集まる」「企画は若い人に任せている」といった意見が出されました。全会一致で「今は分会再編を希望しない」と結論し、検討を続けることとなりました。

2016年4月の第67回支部大会では「再編が必要な分会を候補にあげその対応をはかる」とこととした。分会再編検討委員会に詳細を諮問することとした。

## 20年先を見据え 新体制で新たな飛躍を

検討委員会で2016年のあり方について討議を深めていきました。そして2017年4月の第68回支部大会で、課題を列挙（①群役員の高齢化・マシネリ化：成り手がいない、②分会役員欠員、③分会間格差による組織・運動・財政等の停滞など）し10年20年先を見据えた組織を展望していくうえで組織再編が急務であることとした。



「群役員を代わってくれて人がいない」と大会で悩みを述べる仲間

め2017年度中に再編の検討をすすめる」としました。このとき、（1）第69回支部定期大会で組織再編案を決議し、2018年度中に臨時分会総会（解散・結成）をおこない再編をすること、（2）3つの目安として、①1分会300人規模、②専門部門での役員欠員を解消、③1分会1担当書記、をもとに再編検討委員会に諮（はか）ることとした。

年度内の討議を経て2018年2月の臨時常任、3月の臨時執行委員会でも8分会への変更を提案。承認を受けて、4月8日、第69回支部大会で分会再編案を承認。2019年1月末に現分会を解散、2019年2月に新分会の結成を行なうこととした。

年度内に3回までの分会再編調整会議を開催し役員を中心に分会センターなどを調整し、分会の経験者交流。いよいよ2月から新しい分会体制。新たな飛躍へ、引き続き協力よろしくお願ひします。



再編を決めた69回支部大会

今年度、支部機関紙「すみっほ」500号発行を記念して、分会新聞コンクールを支部で開催することになり、コンクールに向けて、全分会での機関紙発行を強く目指しています。

私の所属している分会も、未発行分会です。先日開催された分会忘年の会で、発行を呼びかけました。記事の提供の約束も取りつけ、編集長も選出され、発行の準備もできました。

「あなたの記事が分会と仲間を繋ぎます」この言葉を合言葉に、全分会発行を目指します。



山田さん

## 八王子 分会新聞にテコ入れ 全分会発行まであと一歩

【八王子・大工・山田光政通信員】支部機関紙は、支部と組合員を繋ぐ役割を担っています。分会新聞は、所属分会を意識してもらえ一番身近な機関紙です。

分会新聞を発行するために仲間と話し合い、仲間から記事や写真を集め、仲間と編集して発行する過程は、全組合員が参加可能な組織活動と言えます。

現在、私は八王子支部で教

宣部長を務めています。支部大会の教育宣伝部活動における次年度方針の項では、「分会新聞の全分会発行を目指し

すでに発行している先進分会の教育宣伝部長に意見を求めたところ、編集会議の重要性が認識されました。その結果、

分会の編集会議に対する補助金制度（月1回まで）もできました。

講師を招いて分会新聞発行教室を開催しました。講演内

現在10分会中、8分会が発行しています。コンクール開催の条件は全分会の分会新聞発行です。未発行の分会には「コンクールのために発行し

てくださ」と言いましたが、目的はコンクールではなく、発行することだと気づき、反省しております。